

リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)

専門科目(リハビリテーション科学学位プログラム_博士前期課程)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OAS0602	リハビリテーション方法論基礎I	1	1.0	1	春A	NT	リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)_M1担任,リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)_担当教員	研究法の基礎として,研究デザイン,学術論文の要件,臨床研究の倫理,調査法,観察法,面接法,文献研究法,検査法等について概説する	オンライン(オンデマンド型) 受講は人間総合科学学術院の在學生に限る。 ※受講する曜時限の目安は水曜7限8限(東京キャンパス)を推奨するが,受講推奨曜時限に開講される他の科目の履修も可能とする。 ただし,その場合は無理なく計画的に履修すること。なお,オンデマンド動画の配信日程は1週毎に行う予定(詳細はManabaに掲載するので必ず確認すること)
OATE101	リハビリテーション方法論基礎II	2	1.0	1	春C秋A	水7,8	リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)_M1担任,リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)_担当教員	研究能力・論文作成能力を高めるために,担当教員の指導のもとに文献研究を行う。主に研究テーマの設定,文献資料の収集・解析,論文の書き方・まとめ方,プレゼンテーションの方法等について指導を受ける。発表会では,研究成果について学会形式に準じて文献研究・デザイン発表を行い,プレゼンテーション方法について実習し,学習課題について理解を深める。研究テーマは修士論文の作成に向けたものであることが望ましい。なお,発表内容・発表時間は文献研究に重きを置く(文献75-80%,デザイン20-25%を目安とする)。担当教員と指導日を相談して決める	対面。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在學生に限る 原則として対面で実施する。各担当教員により実施形態は対面やオンライン(オンデマンド型),オンライン(同時双方型)等となる場合もある。詳細はManaba等で事前に周知する
OATE102	リハビリテーション方法論基礎III	2	1.0	1	秋B 秋C	水7,8 随時	リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)_M1担任,リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)_担当教員	修士論文の作成を念頭において,研究テーマの設定や方法,研究計画などについてグループ指導を行う。グループごとに数名の教員が担当し,学生を交えて多面的に議論を深め,研究計画等の充実を図る	対面。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在學生に限る 原則として対面で実施する。各担当教員により実施形態は対面やオンライン(オンデマンド型),オンライン(同時双方型)等となる場合もある。詳細はManaba等で事前に周知する
OATE103	リハビリテーション研究法I	2	1.0	2	通年	随時	リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)_M2担任,リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)_担当教員	リハビリテーション科学の研究法について,各指導教員より演習を通して具体的に指導する。各々の修士論文のテーマに従い,指導教員との個別の指導や,他の学生とのグループ学習を通じて,修士論文作成のために具体的な調査や実験を開始できるまでの準備作業を行うとともに,当該研究に関する倫理審査を受けて,学内外の倫理委員会の承認を得る。また,その成果を修士論文構想発表会において発表し,質疑応答による指導を行う。	対面。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在學生に限る 原則として対面で実施する。各担当教員により実施形態は対面やオンライン(オンデマンド型),オンライン(同時双方型)等となる場合もある。詳細はManaba等で事前に周知する
OATE104	リハビリテーション研究法II	2	1.0	2	通年	随時	リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)_M2担任,リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)_担当教員	リハビリテーション科学の研究法について,各指導教員より演習を通して具体的に指導する。各々の修士論文のテーマに従い,指導教員との個別の指導や,他の学生とのグループ学習を通じて,修士論文作成のために具体的な調査や実験を実施するとともに,結果の集計・分析を行う。また,これまでの経過と今後の予定を修士論文中間発表会において発表し,質疑応答による指導を行う。	対面。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在學生に限る 原則として対面で実施する。各担当教員により,実施形態は対面やオンライン(オンデマンド型),オンライン(同時双方型)等となる場合もある。詳細はManaba等で事前に周知する。

OATE105	リハビリテーション概説	1	2.0	1	春AB	土4,5	リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)_担当教員	医学、心理学、教育学、社会学等の幅広い観点から、リハビリテーションの発展過程と現代社会における定位を解説するとともに将来へのあり方を展望し、リハビリテーションの理念と実際について概説する。	対面。オンライン(オンデマンド型)。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在學生に限る
OATE106	リハビリテーション研究基礎論	1	1.0	1	春B	水7,8	リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)_M1担任,リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)_担当教員	研究法の基礎として、研究デザイン、臨床研究の倫理、実験計画法、質的研究法、事例研究法、文献研究法、検査法等について概説する	オンライン(オンデマンド型)。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在學生に限る
OATE107	リハビリテーション特別研究	2	1.0	2	通年	随時	リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)_担当教員	リハビリテーションに関する研究を、文献研究、実験実習などを通して各指導教員より具体的に指導する。各々の修士論文のテーマに従い、指導教員との個別の指導や、他の学生とのグループ学習を通じて考察を深め、修士論文を執筆する。また、その成果を修士論文最終発表会と口頭試問において発表し、質疑応答による指導を行う。	対面。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在學生に限る 原則として対面で実施する。各担当教員により、実施形態は対面やオンライン(オンデマンド型)、オンライン(同時双方向型)等となる場合もある。詳細はManaba等で事前に周知する。
OATE201	医学的リハビリテーション	1	1.0	1・2	春C	火7,8	山田 実	医学的リハビリテーションをめぐる今日的課題について、医学生物学的側面から制度的な問題まで多面的に検討し、今後のリハビリテーションのあるべき姿を考察する。	受講にあたり、所属学位プログラム(専攻)は問わないため、誰でも受講可能。対面 秋学期の高齢障害学特論OATE316と合わせて受講することを推奨する
OATE202	特別支援教育特講	1	1.0	1・2	春C	金7,8	川間 健之介,佐島 毅	特別支援教育の制度、カリキュラムを踏まえて視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、及び発達障害の、その教育の理念と歴史及び現状について解説し、関連諸分野との連携について概説する	オンライン(オンデマンド型)
OATE203	ダイバーシティ概論	1	1.0	1・2	春C	集中	河野 禎之	ダイバーシティ&インクルージョンに関する基本的な知識、研究動向について理解を深める。ダイバーシティ推進(LGBTQ+や障害者、高齢者等の多様な状況に対応した社会づくり)をめぐる今日的課題について多面的に検討し、特にリハビリテーション領域から今後の多様性を包摂する社会のあるべき姿を考察する	対面。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在學生に限る
OATE204	職業リハビリテーション	1	1.0	1・2	春A	金7,8	八重田 淳	障害をもつ人々の85%は、「働く機会さえあれば働きたい」というアメリカの調査結果がある。「働く機会」が十分に創造されていないのはなぜか? 本講義では、リハビリテーションそのものへの問いかけから始まり、働くことを手段とする職業リハビリテーションの哲学、職業リハビリテーションの科学、海外における職業リハビリテーションの実践等について紹介し、職業リハビリテーション領域における具体的な研究アプローチを学習する機会を提供する	対面 ただし、状況により対面(オンライン併用型)、オンライン(対面併用型、オンデマンド型、同時双方向型)に変更する可能性がある。どの回が対面なのか等の授業の具体的なスケジュールはManaba等にて周知する。
OATE205	地域リハビリテーション	1	2.0	1・2	春AB	木7,8	大村 美保	地域リハビリテーションのサービスシステムを、さまざまな具体的なテーマをもとに検討し、各テーマにおける現状と課題を学習する。さらに、地域福祉論と地域ケア論における地域リハビリテーションの位置づけを検討し、総合的な理解を深める。	対面 ただし、状況によって対面とオンライン(同時双方向型)の併用に変更する可能性がある。どの回がオンライン(同時双方向型)になるのかといった具体的な授業スケジュールはManaba等で示す。

OATE206	統計学	1	3.0	1・2	春AB 夏季休業 中	土6,7 集中	山田 実, 八重田 淳	記述統計及び推測統計の基礎を学び、研究デザインに応じた統計解析の手法を選択する力を養う	第21-30回は集中講義で演習を行う 対面。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在籍生に限る ただし、状況によりオンライン(同時双方向型)の併用に変更する 場合がある。どの回が対面(またはオンライン)なのか等の授業の具体的なスケジュールはManaba等で周知する。
OATE301	特別支援教育授業論	1	1.0	1・2				特別支援教育の理念に基づき、特別支援学校及び小中学校特別支援学級における学校体制、学級経営、指導計画の立案・作成と評価、授業実践の在り方の実際について考究する	2025年度開講せず。 オンライン(オンデマンド型)。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在籍生に限る リハビリテーション学位プログラムの在籍者で、特別支援学校教諭免許状(知的障害・肢体不自由・病弱)1種を取得しているものに限る
OATE302	特別支援教育教育課程論	1	1.0	1・2				障害児教育における教育課程編成の原理と実際について概説する。とくに、障害の重度化、重複化あるいは多様化の中で、法令や学習指導要領に規定される特例を用いた弾力的な教育課程の編成について整理し、特別支援教育における教育課程の編成及び教育課程開発の在り方について考究する。	2025年度開講せず。 オンライン(オンデマンド型)。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在籍生に限る リハビリテーション学位プログラムの在籍者で、特別支援学校教諭免許状(知的障害・肢体不自由・病弱)1種を取得済みで、かつ専修免許取得予定者に限る
OATE303	特別支援教育コーディネーター論	1	1.0	1・2	秋C	火7,8	熊谷 恵子	中心的な学習内容は、通常の学級において特別な支援のニーズのある子どもに関して特別支援教育コーディネーターが中心となっていく支援体制の重要な1つである。学校での支援の実際については、どのように行われているか、医療機関従事者や保護者からは見えにくいと言われている。それを校内の特別支援教育に関する校内委員会での支援ニーズのある子どもに対してどのように取り上げて支援に至るのか、会議過程を演習により体験することで学ぶ。特に、本人の認知特性と支援の内容が結びついていない各地の実践報告が多くなされている中、理想的には、どのように子どもの実態を把握し、どのような学校の中の資源を使い、実際の支援を進めていくべきなのかを学ぶ。それに先立ち、必要な知識を講義により学ぶ	「対面」の講義であるため、受講にあたり、所属学位プログラム(専攻)は問わないが、事前に発達障害学特論を受講し、東京キャンパスにて「対面」が可能な状態の他の所属の大学院生も事前に教員に連絡することで、受講は可能である 対面 ただし、状況によりオンライン(オンデマンド型)とオンライン(同時双方向型)の併用に変更する 場合がある。どの回が対面(または同時双方向型のオンライン)なのか等の授業の具体的なスケジュールはManaba等にて周知する

OATE304	障害者福祉論	1	1.0	1・2	春C	木7,8	大村 美保	障害および障害者の社会福祉学における概念を理解し、障害者福祉の理念、思想、歴史を理解する。さらに、障害者の生活実態とその生活を取り巻く環境を理解する。障害者総合支援法と関連する諸制度の理解を深め、障害者福祉に関して総合的に学習する。	対面。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在學生に限る。ただし、状況によって対面とオンライン(同時双方向型)の併用に変更する可能性がある。どの回がオンライン(同時双方向型)になるのかといった具体的な授業スケジュールはManaba等で示す。また、原則、専修免許取得予定者に限定する。その他の学生はリハビリテーション科学学位プログラムの在學生に限り受講を認める
OATE305	職業指導論	1	1.0	1・2	通年	随時	八重田 淳	障害児・者の雇用と就労に関する国内外の動向と法制度の概要、就労支援サービス利用者のニーズ、就労支援・職業リハビリテーション関連機関と関連専門職の役割と機能、就労支援のプロセスと就労支援技術、医療・教育分野との連携について述べる。	対面。ただし、状況により対面(オンライン併用型)、オンライン(対面併用型、オンデマンド型、同時双方向型)に変更する可能性がある。どの回が対面なのか等の授業の具体的なスケジュールはManaba等にて周知する。
OATE306	リハビリテーション事例研究	2	2.0	1・2	秋AB	土6,7	リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)_担当教員	リハビリテーションの観点から事例を検討し、リハビリテーションにおける連携の諸問題について理解を深め、相談援助のための知識・技術を修得する。本授業では、教育・医学・社会・職業リハビリテーションの各領域における諸問題について事例を通じて検討するカンファレンスへの参加が求められる。受講生は、カンファレンスにおいて各自が現場で携わっている事例をもとに事例報告発表を行う。発表に先立って担当教員の指導を個別に受ける。担当教員の決定については、授業開始時のオリエンテーションで指示を行う。	対面。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在學生に限る。原則として対面を実施する。各担当教員により実施形態は対面やオンライン(オンデマンド型)、オンライン(同時双方向型)等となる場合もある。詳細はManaba等で事前に周知する
OATE307	特別支援教育事例研究	2	2.0	1・2	通年	随時	リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)_担当教員	障害児・者等の事例を検討し、事例を中心とした各領域・職種間における連携の諸問題について理解を深めるとともに、相談援助のための知識・技術を修得する。本授業では、教育・医学・社会・職業リハビリテーションの各領域における諸問題を、事例を通じて検討するカンファレンスへの参加が求められる。受講生は、カンファレンスにおいて各自が現場で携わっている事例をもとに事例報告発表を行う。発表に先立って担当教員の指導を個別に受ける。担当教員の決定については、授業開始時のオリエンテーションで指示を行う。	履修条件:専修免許取得予定者に限る。対面。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在學生に限る。原則として対面を実施する。各担当教員により実施形態は対面やオンライン(オンデマンド型)、オンライン(同時双方向型)等となる場合もある。詳細はManaba等で事前に周知する
OATE308	視覚障害学特論	1	2.0	1・2	春AB 春C	火7,8 集中	佐島 毅	視覚障害児・者の感覚・知覚・認知の特性を概観し、医学的・心理学的視点を含めて包括的に発達、学習、教育支援の視点を学ぶ	オンライン(オンデマンド型)
OATE310	言語障害学特論	1	2.0	1・2	夏季休業 中秋A	集中	廣瀬 綾奈, 河野 禎之	言語・コミュニケーション障害の種類、言語・コミュニケーション障害に対する評価・診断、治療および支援の枠組みについて概説し、次に小児期から老年期までにわたる各障害の基本概念、原因と発生メカニズム、症状・評価・診断、指導・訓練・相談・マネジメントの方法と実際について概説する	対面。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在學生に限る。ただし、状況によりオンライン(同時双方向型)の併用に変更する可能性がある。どの回が対面(またはオンライン)なのか等の授業の具体的なスケジュールはManaba等で周知する。
OATE311	運動障害学特論	1	2.0	1・2	春AB	金7,8	川間 健之介	運動障害児(者)のリハビリテーションに関するアセスメントとインターベンションに焦点を当てて、医学的・教育的・心理学的側面から学習する	オンライン(オンデマンド型)

OATE312	知的障害学特論	1	2.0	1・2	秋A 秋B	金7,8 集中	小島 道生, 大村 美保	知的障害の心理や認知特性、教育課程や指導法、そして知的障害者に関わる福祉制度ならびにサービス評価や支援の実際について概説する。	第11回～第20回は集中講義として実施する 12/20, 12/21 対面 ただし、状況によって対面とオンライン（同時双方向型）の併用に変更する場合がある。どの回がオンライン（同時双方向型）になるのかといった具体的な授業スケジュールはManaba等で示す。
OATE313	精神障害学特論	1	2.0	1・2	秋AB	火7,8	河野 禎之	超高齢社会である現代において重大な疾患となっている「認知症」について、臨床的・実践的な講義を行うとともに、医療/福祉領域に限らず認知症を「社会的課題」として捉えるアプローチである「Dementia Friendly Community」について最新の知見を学ぶ。また、年代を問わず最も身近な精神障害と言える「うつ」について、その病理や最新の薬物/非薬物治療のほか、社会情勢、具体的な対応の実践について学ぶ。さらに、授業でグループワークを重ねることで、これらの課題について自らがどのように考え、どのように行動するのか、プロフェッショナルとして主体性を発揮できるようになることを目指す	対面。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在學生に限る 対面を主として話題提供はオンライン(オンデマンド型)により行う。また、グループワークは対面またはオンライン(同時双方向型)で行う。どの回が対面なのか等の授業の具体的なスケジュールはManaba等にて周知する
OATE314	高次脳機能障害学特論	1	2.0	1・2	秋AB	集中	望月 聡, 河野 禎之	高次脳機能障害について、まず総論として概念・方法論について、次に各論として個々の高次脳機能障害についてできるだけ具体的事例を提示しながら概説し、研究動向とリハビリテーションについても触れる	オンライン(同時双方向型)。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在學生に限る
OATE315	健康障害学特論	1	1.0	1・2	春B	NT	川間 健之介	健康障害のある人の心理的特性、人体の生理・病理の基本的事項、各種疾患や障害の病理及び保健などの概要について理解し、健康障害がある人への心理的ケアや保健面での適切な配慮が出来るようにすることを目的とする。そのため、主な疾患や障害について、病態生理及び保健の視点から取り上げて概説し、保健・福祉・教育・労働等の立場から配慮すべき点について考察する	オンライン(オンデマンド型)。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在學生に限る 原則として春B 木7,8の時間に動画を配信する。視聴期限等の詳細はManaba等で事前に周知する
OATE316	高齢障害学特論	1	1.0	1・2	秋AB	木7,8	山田 実	高齢者をめぐる諸問題を多面的に検討し、包括的なリハビリテーションのあり方を考察する。	受講にあたり、所属学位プログラム(専攻)は問わないため、誰でも受講可能。対面 春学期の医学的リハビリテーションOATE201を先に受講していることが望ましい
OATE317	発達障害学特論	1	2.0	1・2	秋AB	火7,8	丹治 敬之	発達障害のある人たちの認知的・行動的な特性に関する基本的な知識について理解を深める。発達障害の理解と支援の具体的な手法については、学校および療育場面における事例的・臨床的事項を取り上げ、主に認知特性のアセスメントと適応的アプローチ、行動と環境の相互作用アプローチ(応用行動分析学)から考察する。また、発達障害のある人たちをめぐる社会的課題を取り上げ、ペア/グループワークを通してディカッションを進める。主に合理的配慮、社会モデル、ニューロダイバーシティの視点から捉え、社会課題に対する自らの気づき・変化を意識し、何が出来るかを考え続けていくことを目指す	※「対面」の講義であるため、受講にあたり、所属学位プログラム(専攻)は問わないが、東京キャンパスにて「対面」が可能な状態の他の所属の大学院学生は事前に連絡することで受講できる。 対面 ただし、オンライン(オンデマンド型)またはオンライン(同時双方向型)も併用する。どの回が対面(オンデマンド、または同時双方向型のオンライン)なのか等の授業の具体的なスケジュールはManaba等にて周知する。

OATE318	視覚障害学演習	2	1.0	1・2	秋C	随時	佐島 毅	視覚障害教育、医療、福祉、リハビリテーションに関する内外の文献及び実際例をもとに、医学的・教育学・心理学的側面を踏まえて理論的・実践的に考察する。	対面。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在学生に限る。ただし、状況によりオンライン(同時双方向型)の併用に変更する可能性がある。どの回が対面(またはオンライン)なのか等の授業の具体的なスケジュールはManaba等で周知する。
OATE319	運動障害学演習	2	1.0	1・2				運動障害児(者)のリハビリテーションに関するアセスメントとインターベンションに焦点を当て、内外の文献及び実際例をもとに、教育学・心理学的側面から学習する。小児期から高齢期にいたる運動障害はじめてとする障害のリハビリテーションの今日的課題について事例及び文献を通して医学生物学的側面を踏まえて理論的・実践的に考察する。	2025年度開講せず。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在学生に限る
OATE320	高齢障害学演習	2	1.0	1・2	秋C	随時	山田 実	高齢期におけるさまざまな障害のリハビリテーションをめぐる今日的課題について、事例及び文献を通して理論的・実践的に考察する。	受講にあたり、所属学位プログラム(専攻)は問わないため、誰でも受講可能。対面。ただし、状況によりオンライン(同時双方向型)の併用に変更する可能性がある。どの回が対面(またはオンライン)なのか等の授業の具体的なスケジュールはManaba等で周知する。
OATE321	発達障害学演習	2	1.0	1・2	秋C	随時	藤本 啓寛	発達障害をはじめとした教育・福祉現場における支援の機序や支援者の職能成長を社会科学的に理解するための文献研究、専門領域の知識および研究方法を習得する。発達障害をはじめとした教育・福祉現場における支援の機序や支援者の職能成長を社会科学的に理解する上で必要となる社会学的な理論を取り上げ、さらに支援や職能成長を効果的に展開するための教育・福祉現場におけるリソースの一つであるスクールソーシャルワークについても理解を深める	対面。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在学生に限る。ただし、状況によりオンライン(同時双方向型)の併用に変更する可能性がある。どの回が対面(またはオンライン)なのか等の授業の具体的なスケジュールはManaba等で周知する
OATE322	社会リハビリテーション演習	2	1.0	1・2	秋C	随時	大村 美保	社会リハビリテーションの理論に基づいて、社会生活力を高める各種プログラムや、機会均等化、環境改善を進めるための具体的な実践方法や課題を学ぶ。	対面。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在学生に限る。ただし、状況によって対面とオンライン(同時双方向型)の併用に変更する可能性がある。どの回がオンライン(同時双方向型)になるのかといった具体的な授業スケジュールはManaba等で示す。
OATE323	職業リハビリテーション演習	2	1.0	1・2	秋C	随時	八重田 淳	キャリアデザイン、キャリア移行支援、キャリア開発などをキーワードに、生涯発達科学における職業リハビリテーション研究方法論を演習形式により修得する。研究法に慣れ親しみ、学術論文を読む力を養い、研究計画を策定・実施するために必要な基本能力を養うために、実際に調査票を作成し、仮データに基づいた分析を行う	対面。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在学生に限る。ただし、状況により対面(オンライン併用型)、オンライン(対面併用型、オンデマンド型、同時双方向型)に変更する可能性がある。どの回が対面なのか等の授業の具体的なスケジュールはManaba等にて周知する。

OATE324	リハビリテーションカウンセリング	2	1.0	1・2	春B	金7,8	八重田 淳	リハビリテーションカウンセリングは、障害をもつ人々の総合的な自立生活と自己実現を総合的に支援するカウンセリング心理学の応用科学領域であり、もともとは職業リハビリテーションを総合的にマネジメントするための手法としてアメリカを中心に展開されている。したがって本講義では、アメリカの大学院リハビリテーションカウンセラー教育法を取り入れ、Scientist-Practitionerに必要なスキル習得を目指す	対面 ただし、状況により対面（オンライン併用型）、オンライン（対面併用型、オンデマンド型、同時双方向型）に変更する可能性がある。どの回が対面なのか等の授業の具体的なスケジュールはManaba等にて周知する。
OATE325	リハビリテーション課題研究	2	1.0	1・2	通年	随時	リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)_担当教員	当年度4月1日～年度末（3月末）までになされた各自の関連学会等における発表をもとに、その際の議論に基づいて、研究を深める。また、この発表をもとに学会誌等へ論文を投稿する。	対面。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在學生に限る 原則として対面で実施する。各担当教員により実施形態は対面やオンライン（オンデマンド型）、オンライン（同時双方向型）等となる場合もある。詳細はManaba等で事前に周知する
OATE326	リハビリテーション英語	1	1.0	1・2	夏季休業中	集中	八重田 淳	リハビリテーションの英語論文を効果的に読む方法、妥当な検索キーワードの選び方、英語の図表の書き方と読み方、正しい英語文献の書き方、国際共同研究の進め方、国際学会プレゼンテーションなどについて実践的に学ぶ	対面 ただし、状況により対面（オンライン併用型）、オンライン（対面併用型、オンデマンド型、同時双方向型）に変更する可能性がある。どの回が対面なのか等の授業の具体的なスケジュールはManaba等にて周知する。
OATE327	国際リハビリテーション演習	2	1.0	1・2	秋C	随時	リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)_担当教員	英語による学会発表用ポスターの作成、英語による口頭プレゼンテーション、英語によるアカデミックライティング等の国際発信力を向上させるために、実際の国際学会発表や国際学会誌への投稿を行うことで単位認定とする。そのため、定期的な演習授業は行わず、該当する発表や投稿の結果を各自が率先して行い、その結果を該当教員に提出し、評価を受ける	オンライン(同時双方向型)。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在學生に限る 演習は、受講生が実際に国際学会等で英語による口頭発表等を行った上で、その発表内容をレポート等にて提出することにより演習の単位とみなす
OATE328	質的研究法	1	1.0	1・2	秋ABC	集中	藤本 啓寛	リハビリテーションに関する諸課題について分析・考察する資質を養うため、質的研究の全体像と基礎的な分析手法を学び、設定した研究上の問いに応じた質的な調査・分析能力の基礎を形成することを目的とする。そのために、まず質的研究が求められる背景と質的研究の全体像を示したうえで、実際に質的研究を行った論文を講読することで質的研究のイメージを膨らませる。次に、社会人大学院生が取り組みやすい質的調査法の一つであるインタビューを実施する。調査の企画・準備を踏まえてインタビューを実施したのち、文字起こしを行った上で分析を実施する（分析手法は定性的コーディング、あるいはM-GTAを想定しているが、受講生の実態を踏まえて決定する）。そして実際に質的研究を発表し、相互にフィードバックを行う	受講にあたり、所属学位プログラム(専攻)は問わないため、誰でも受講可能。対面
OATE329	多変量解析法	1	1.0	1・2	夏季休業中	集中	荘島 宏二郎, 河野 禎之	主成分分析、因子分析、重回帰分析、共分散構造分析等、研究デザインに応じた多変量解析の手法を選択する力を養う。原則として「統計学」の受講を前提とする	対面。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在學生に限る
OATE330	精神障害学演習	4	1.0	1・2	秋C	随時	河野 禎之	精神障害やその周辺領域における教育、医療、福祉、リハビリテーションのほかダイバーシティ・エクイティ・インクルージョンに関する内外の文献及び実際例をもとに、医学的・教育的・心理学的側面を踏まえて理論的・実践的に考察する	対面。受講はリハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)の在學生に限る 原則として対面で実施する。各担当教員により実施形態は対面やオンライン（オンデマンド型）、オンライン（同時双方向型）等となる場合もある。詳細はManaba等で事前に周知する